

# 食べごろブルーベリーいかが？

## 「ビロードの光沢」は汗の結晶

### 富岡 セルプ水士舎で一般公開

富岡市後援の社会福祉 寄附授産施設セルプ水士 いるブルーベリーが収穫法人・上州水士舎（金谷 舎）（金谷透施設長、利 朋を迎え、観光農園とし富岡理事長）の「知的障 用者30人」が栽培をして一般に開放を始めた。



観光農園として収穫ができるようになった「セルプ水士舎」で栽培しているブルーベリー——松本時夫写す

ブルーベリーは「水士舎」の設立（2000年4月）と同時に、施設から北東に700×800坪離れた同市小野の80坪の農地に、「水士舎」の前身だった新里村赤城山の農場から、500本の成木を移植した。

無農薬で栽培し、肥料は必要に応じて、有機物のみを使用。ブルーベリーは、黒いビロード状の光沢のある実や、黒い実に白い粉をコーティングしたようなものと5、6品種がある。

栽培は、知的障害を持つ施設利用者が毎日、うなるような暑さの中、水をやり、土壌を酸性に保つため、ピートモスなどを木の根に絡ませる作業に汗を流した。入圃は無料でもぎ取った実を1千500円で販売している。1人で5分くらいもぎ取っている人も。開放期間は下旬まで。入圃希望者は、農園に人が常駐していないため「水士舎」（0274・64・1254）へ。

【松本時夫】